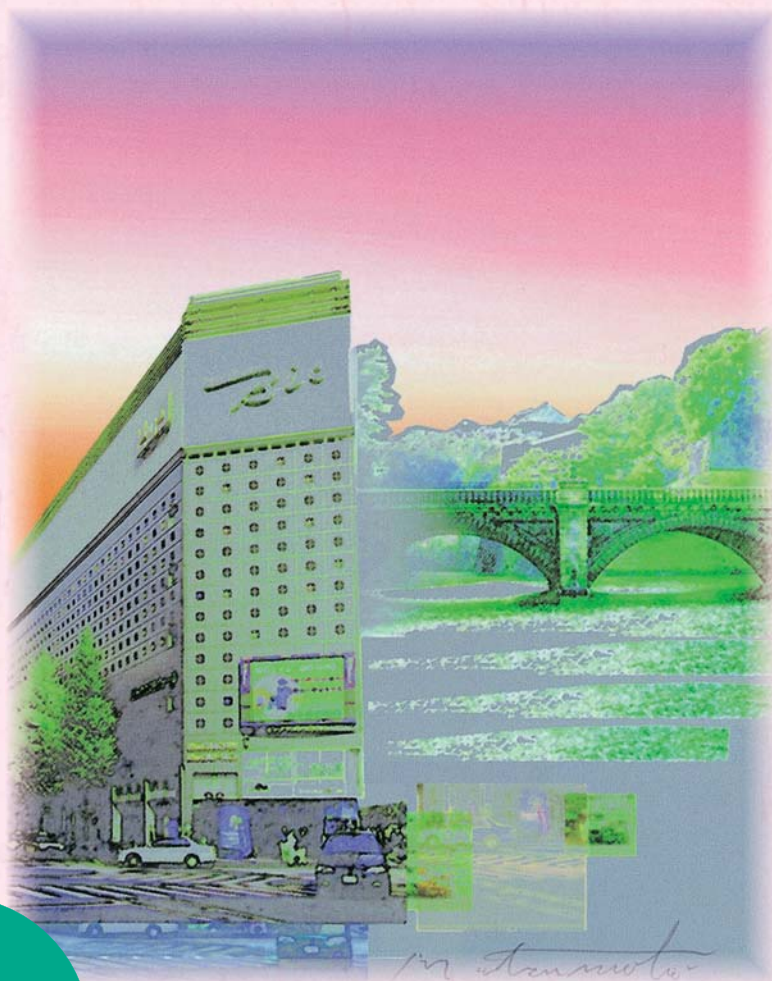


生活習慣病予防週間
第10回糖尿病市民セミナー・東京
講演会 抄録集
テーマ「災害と糖尿病医療」



**TOKYO
2012**

日時 平成24年2月5日(日)
午後1時～午後4時30分

会場 有楽町・よみうりホール

主催 (社)日本糖尿病協会東京都支部
(東京都糖尿病協会)
ニプロ(株)／アステラス製薬(株)

後援 東京都糖尿病対策推進会議
東京都医師会／東京内科医会
東京都栄養士会

目次

プログラム.....②

ご挨拶

実行委員長 順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 糖尿病・内分泌内科 教授 綿田 裕孝...③

第一部「災害医療と放射線汚染」

司会 あいそ内科 院長 相磯 嘉孝...④

● 災害医療総論

順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科 教授 岡本 健...⑤

● 放射線汚染とその対処

順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 放射線科 教授 笹井 啓資...⑦

第二部「災害時の糖尿病医療」

司会 順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 糖尿病・内分泌内科 先任准教授 弘世 貴久...⑨

● 大震災から学んだこと

大阪市立総合医療センター 糖尿病センター 部長 細井 雅之...⑩

● 大震災における糖尿病医療 —仙台からの報告—

東北大学病院 糖尿病代謝科 准教授 石垣 泰...⑫

● 大震災における糖尿病医療 —福島からの報告—

福島県立医科大学附属病院 糖尿病・内分泌代謝内科 准教授 佐藤 博亮...⑭

● 災害時の糖尿病医療 —今後の課題—

東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 准教授 植木浩二郎...⑯

ご挨拶

(社)日本糖尿病協会東京都支部支部長 (東京都糖尿病協会会長) 菅原 正弘...⑱

● プログラム ●

《1：00～1：05》

●開会のご挨拶

実行委員長：順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 糖尿病・内分泌内科 教授 綿田 裕孝

《1：05～2：15》

●第一部「災害医療と放射線汚染」

司会：あいそ内科 院長 相磯 嘉孝

- 災害医療総論 順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科 教授 岡本 健
- 放射線汚染とその対処 順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 放射線科 教授 笹井 啓資

《2：15～2：30》（休憩）

《2：30～3：50》

●第二部「災害時の糖尿病医療」

司会 順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 糖尿病・内分泌内科 前任准教授 弘世 貴久

- 大震災から学んだこと 大阪市立総合医療センター 糖尿病センター 部長 細井 雅之
- 大震災における糖尿病医療 —仙台からの報告—
東北大学病院 糖尿病代謝科 准教授 石垣 泰
- 大震災における糖尿病医療 —福島からの報告—
福島県立医科大学附属病院 糖尿病・内分泌代謝内科 准教授 佐藤 博亮
- 災害時の糖尿病医療 —今後の課題—
東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 准教授 植木浩二郎

《3：50～4：00》（休憩）

《4：00～4：25》

●第三部 パネルディスカッション

司会 順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 糖尿病・内分泌内科 教授 綿田 裕孝
順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 糖尿病・内分泌内科 前任准教授 弘世 貴久

パネリスト

- 大阪市立総合医療センター 糖尿病センター 部長 細井 雅之
- 東北大学病院 糖尿病代謝科 准教授 石垣 泰
- 福島県立医科大学附属病院 糖尿病・内分泌代謝内科 准教授 佐藤 博亮
- 東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 准教授 植木浩二郎

《4：25～4：30》

●閉会のご挨拶

東京都糖尿病協会 会長 菅原 正弘

実行委員長のことば

略歴

- 平成2年3月 大阪大学医学部卒業
- 平成2年7月 大阪大学医学部附属病院非常勤医員、研修医（第一内科）
- 平成3年7月 桜橋渡辺病院内科、循環器内科医員
- 平成5年4月 大阪大学大学院（第一内科、糖尿病臓器研究室）入学
- 平成9年4月 大阪大学大学院（第一内科、糖尿病臓器研究室）修了、医学博士
- 平成9年7月 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校、ホルモン研究所 研究員
- 平成13年9月 順天堂大学医学部内科学代謝内分泌学講座 講師
助教授、准教授を経て
- 平成22年6月 順天堂大学医学部内科学代謝内分泌学講座 主任教授



綿田 裕孝

本日は第10回糖尿病市民セミナーにお集まり下さり大変ありがとうございます。実行委員長を務めさせていただきます順天堂大学糖尿病内分泌内科の綿田裕孝です。

今回のテーマは「災害と糖尿病医療」です。まずは、東日本大震災で被災された方々の苦難・心労を思い、謹んでお見舞いを申し上げます。

私自身は、大きな地震が起こるはずはないと誰もが信じていた西日本で生まれ、育ち、大学を出て、大阪の病院で医師として働いておりましたが、1995年1月、大阪の繁華街にある病院での当直業務中の早朝に阪神大震災を経験しました。あわてて起きて、当直室から病棟に行くと、点滴ビンが床に転がり落ち、いろいろな医療装置が停止していました。幸い、患者さんで大きな被害を受けた方はおられませんでしたので、看護師さんと、点滴ビンを一つずつかたづけ、医療装置を再稼動させました。その後、通常出勤するはずの医師を待っていたのですが、誰も、定時には病院にたどり着けず、その後、遅れて出勤した医師に後を任せ、地震発生後5～6時間後に初めて外に出てみると、ほとんどの人が街に出勤でき

ないように、大阪の街は驚くぐらい静かでした。東京では、昼間に地震が起こり帰宅が困難な状態でしたが、大阪はその逆でした。その数時間後、大阪のおとなりの神戸が、ひどい状態になっていることがわかり、非常に驚きました。1週間後、神戸の病院の要請により、当直業務をしに行く途中、阪神高速道路の高架が落下しているとともに、昔知っている三宮の町が様変わりしているのを目の当たりにして、地震は本当に怖いものだと思います。また、その時、おそらく自分が生きている間には、こんなに大きな災害をもたらす地震は、もう二度と日本では起こらないだろうと思いましたが、それが、昨年起こってしまいました。今回は、阪神大震災以上の大型地震で、津波、原発事故と様々な問題が起こり、信じられないほど多くの人と貴重な物を失いました。

備えあれば憂いなし、本セミナーを通じて、皆さんが、震災とはどういうものか、糖尿病患者や、糖尿病医療に携わる人は災害時にどのような備えをし、どのように行動すべきなのかを理解していただければ幸いです。

